

トラック 20-2

スルタンには二人の息子とひとりの娘がいた。彼は自分の兄弟の娘も同じように育てていた。

或る日、彼は子供たちに言った。

「ちょっとしたテストがあるのだが、外の間を関わらせたくはない。だから、お前たちにそれを提案したい。それが出来た者がスルタンになるのだ」。

彼は、食事の用意をさせて、彼らに出した。彼は、一口飲み込むごとに、肛門からすぐ出した。子供のひとりが言った。

「飲み込んで、トイレに行く間もなく出てくるなんて普通じゃない」。

スルタンは答えた「心配することはない」。

スルタンは妻に、これこれの料理をこれこれの時刻に準備するように言った。スルタンは戻って来て、食事を出すように命じた。彼は子供たちをそれぞれ決まった席に着かせた。彼は実は、自分の子供たちではなく姪に王国を譲ろうと望んでいたのだった。

彼らが食べていたところ、姪は、嘔むや否や食べ物が後ろから出てきた。スルタンは、子供たちに食べることをやめるよう命じ、言った「彼女がお前たちのスルタンだ！」。

彼は姪に、衣服を持ち上げるよう言い、大便を認めた。スルタンの娘が尋ねた。

「どうやったの？ 腸がないんじゃないの？」。

姪は答えた「私もあなたと同じくらい驚いているのよ。何だかよくわからない奇跡ね」。

もうひとりの息子はこう言った。

「これは我々の父がやった細工だ。我々のひとりひとりが決まった席に着くよう命じたのには理由がある。その上、彼は我々の母に、これこれの料理をこれこれの時刻に準備するよう言ったし、彼が我々に食事を用意したのだ。彼は、君がスルタンになることを望んだけれそ、それを直接知らせようとはせずに、奇跡だと思わせるようにしたんだ」。

スルタンは兄を呼んで言った「あなたは長男で私は末っ子だから、スルタン位はあなたのものにすることを決めた。あれが私が見つけた唯一の方法だったのだ」。

彼の兄は礼を言い、幸運を祈った。末っ子の娘はスルタンの息子と結婚し、幸せに暮らした。